

## 香芝市社会教育関係団体との懇話会報告書

平成26年9月10日  
香芝市社会教育関係団体懇話会  
座長 山下幸二

第2次香芝市生涯学習推進基本計画を策定するにあたり、本市の社会教育関係団体との懇話会を2回にわたり開催し、日頃の実践活動されている社会教育活動の各団体からの活動状況や課題等について、懇談し、新たに策定する生涯学習基本計画づくりに向けた、参考データとして反映させる目的で、次のように取りまとめたので報告する。

### 1 平成26年5月28日（第1回）

案件は、各団体の活動状況と課題について情報交換を行った。

#### (1) 市すみれ会

- ・女性の団体として90名の会員がいるが、実際の活動となると約半数程度となっている。
- ・各年度にテーマを設定して、各種事業を行っているが、参加人数を想定した場合に場所の確保が大変である。（参加者の裾野を単に広げることができない。）

#### (2) 生涯学習ボランティア連絡協議会

- ・平成6年に設立し、すでに20年で主に公民館、博物館を拠点として活動している。  
（4グループ 60名程度）
- ・ボランティア会員の募集も、以前は市の広報誌で行っていたが、若年者が集まらない。
- ・ボランティアは、自己啓発と自己実現というか。まさに生涯学習となっている。
- ・課題は、ボランティア会員も高齢化している。その為、運営上も色々と問題もあると考えている。

#### (3) スポーツ少年団

- ・校区型スポーツ少年団（8団）となっている。
- ・課題として 1つ目は、競技志向に走ることがある。  
2つ目は、指導者の養成と本市のスポーツ少年団活動の魅力が薄らいでいる。  
3つ目は、スポーツを一人でも多く地域に愛されるスポーツ少年団であってほしい
- ・27年度から認定講習会として、さらに指導者の資質向上を図っていくことになっておりより指導者の養成が厳しくなっていくことも予想される。

#### (4) ふたかみ史遊会・友の会

- ・二上山博物館・友の会としての団体で、ボランティア団体ではない。博物館とともに

歩んでいる。

- ・平成5年に設立し22年目に入っているが、平成25年度で会員350名の市内は4割弱となっている。(当初は460名程であったが、高齢化に伴い会員が減ってきている。)
- ・課題として、黄金の60代、定年後の方の入会(会員)が中々入ってくれない。

#### (5) 青少年指導員

- ・地域単位での青少年活動する場所がなくなっている。
- ・地域にある公民館が空いていることが多い。その為、学校が終わったら、そうした公民館や集会所を利用して活動できたら良いと考えている。

#### (6) 体育協会

- ・平成22年度に社会体育施設の指定管理者になり、施設の管理運営に努めている。
- ・安全と市民サービスの向上に、そして施設利用の拡大に力を入れている。従前は、木曜日が休日であったが、毎月1回のみ休館として利用者の利便性に努めてきた。又は、利用者拡大という点では良好となっている。
- ・生涯スポーツは、「する、みる、きく」のスポーツであり、特に今後は「みる、きく」のスポーツにも力を入れていきたい。
- ・課題は、スポーツ施設につきもの、怪我等についての賠償保険が課題であり、又、施設の老朽化しているので、それとの補修についてが、大きな課題となっている。

#### (7) レクリエーション協会

- ・レク協の団体は、会員の少ないところは20名、多いところで100名の団体もある。
- ・年間の大きい事業は、11月のふれあいフェスタに併せて「クラブフェスティバル」の事業を実施しているが、今後はボランティア活動的なことも取り入れていきたい。
- ・生涯学習に対する物・人の対応が薄いのではないか。

#### (8) 公民館まつり実行委員会

- ・市民の多くの方が参加しての団体である。
- ・公民館活動の中でサークル団体に登録されている114団体である。
- ・昨年「公民館まつり」の実行委員会形式で運営している。
- ・課題は、公民館まつりの参加人数が昨年5400人程であり、市民の数からいえば、1割にも満たない。

#### (9) 子ども会育成連絡協議会

- ・子ども会育成連絡協議会としては、市内に活動している、別所・狐井・瓦口・あしびの4つの団体で構成されている。協議会の活動としては、日頃は、単位子ども会での活動状の情報交換を通じ、お互いの子ども会活動が活性化するように役員会を開催している。
- ・各単位子ども会としては、異年齢のこども同志が様々な体験行事を通じて仲間づくりや思いやり、助け合いの心を培っていくものと感じている。

以上が、第1回懇話会の概要であったが、各団体の活動内容等から共通した課題で

言えることは、高齢化と会員数の減少が現在の課題のように思われる。

## 2 平成26年7月30日（第2回）

案件は、事前にテーマを設定し、様々な角度からの意見交換を行った。

テーマ設定として

- (1) 生涯学習を進めていく上で今後力点を置きたい事柄
- (2) 生涯スポーツ推進に向けて、今後必要な事柄
- (3) 生涯スポーツ人口の拡大に向けて、どのように活動すべきか
- (4) 生涯学習・スポーツ活動の活動を促すことには、何が必要か

以上のテーマを踏まえて、意見交換等を行ってききましたので、その要点は、次のようなことである。

### ○ 地域・自治会という観点から

- ・行政における生涯学習の位置づけの相対的低下もあり、現実的に地域の発展にとって意味のある端的に言えば「役に立つ」生涯学習が求められている。
- ・地域における生涯学習活動も当初の「自己実現」や「仲間づくり」を重視したのから学んだことを地域に活かすこと、地域づくりにかかわる学習が重視されている。
- ・今や、一般的な生涯学習活動を越えて、地域課題に取り組み、実際に地域づくり活動を進めていくことができるような「地域をつくる学び」の展開が必要となっていると思われる。
- ・「地域」という活動でサークル的な活動されている地域と何もされていない地域の差があり、生涯学習という観点からも地域間の差を何とかしなければならない。その為には、どのような対策をすれば良いのかが課題である。

### ○ ボランティアという観点から

- ・市の行事の様々なイベントの催しに際して、市民の方や専門性を有する方々のボランティア活動できる企画を行って、その公募等を積極的に進めて、市民と行政の協働でのまちづくりを進めるべきではないか。
- ・あらゆる各分野における、ボランティア養成をもっと進めていく必要がある。
- ・ボランティアを志向する社会は、個人が共同社会への共感に立って、自主的にその営みに参加し、貢献することに価値を置く社会であり、こうした方向性を促進することは社会をより望ましいものへと変革していくことにつながることであると思われる。
- ・ボランティア活動に参加することによって、必然的にさらなる学習が発展することになるなど、生涯学習と密接な関係にあると考えられる。
- ・生涯学習の推進、循環型生涯学習社会の構築には、指導者やボランティアの育成確保が必要となる。

その為、生涯学習ボランティア活動に関する学習機会を充実し、生涯学習指導者・ボランティアの育成を図るとともに、活動の支援と活動の場を確保するしくみづくりが大切であると思われる。

- 情報提供という観点から
  - ・学習を推進する上で様々な取組みが必要だが、情報発信する対策としてマスメディアの活用をもっと積極的に進めるなどのアピール力の工夫が必要である。
  
- 生涯学習の推進に向けてという観点から
  - ・生涯学習を推進する上で、留意すべきことは「個人のニーズ」と「社会の要請」とのバランスが大切である。
  - ・生涯学習の内容は、趣味的なものから就業能力の向上に資するものまで多種多様である。
  - ・これからの生涯学習の推進については、幅広い学習支援を行うことで社会の変化に対応できる自立した個人やコミュニティの形成が求められている。
  
- 地域の教育力についてという観点から
  - ・地域の教育力向上のためには、地域全体の学習の支え合い（共同）、地域の課題解決は、地域自身の手で助け合い（共生）、家庭や地域の教育力と学校教育等の効果的な連携つながり合い（共育）の視点をもつことが大切である。
  - ・地域の教育力向上のための別の視点で言うと、学校、家庭、地域がそれぞれ教育力の向上を図ることと同時に企業等の各種団体がそれぞれ期待される役割を果たしつつ、緊密に連携・協力して地域課題を共有し、課題解決に取り組むことが重要である。
  - ・その為には、地域活動の活性化と組織の強化である。現在、本市では、様々な地域活動が行われている。より地域の教育力を向上させるために、それぞれが持つ役割を明確にし、その役割を担っていくことが今後、益々必要となってくる。
  
- 生涯スポーツという観点から
  - ・多様なスポーツニーズに対応するためには「効果的」に事業の企画・立案するとともに、限りある資源の「効果的」な活用による事業の展開・実施を図っていくことが求められている。
  - ・近年わが国においては、健康長寿へ最大の阻害原因となる生活習慣病の抑制に向けて健康づくりの運動・スポーツが積極的に進められている。つまり、生涯にわたって健康・体力の維持・増進を図るには継続的な運動・スポーツが有効な方法の一つとなっている。
  - ・地域のスポーツ活動やイベントの運営に関わっていく、スポーツボランティアの育成に努めることがスポーツ推進策の一つの課題であると思う。その為、スポーツ教室等の開設においても、競技スポーツに精通した指導アシスタントや各種のスポーツ大会などにおける、企画・運営するアシスタントのボランティアも積極的に発掘し、スポーツを盛り上げる体制の整備を図っていく必要がある。
  - ・生涯スポーツ人口の裾野を広げて行く為にも、総合型地域スポーツクラブの活動を高めていくことが重要と思われる。

- ・生涯スポーツを推進していく為には、市民のライフステージに応じた運動・スポーツの推進を図っていくことが必要である。(子ども・成人期・高齢期・障がい者)
- ・長年開催されてきた体育のイベント「市民体育祭」がなくなっているが、諸課題等があったので休止されている。

体育・スポーツの振興を図る上でもっとコンパクトな地域単位での体育行事を分散するなどしながら開催していくことも検討していく必要があるのではないかと考えられる。

### 3. 総括（まとめ）

今日、香芝市の第2次版としての生涯学習基本計画を策定されるにあたり、我々の社会教育関係団体が一堂に会して、2回にわたる懇話会を開き、様々な角度から生涯学習という広い概念ではあるものの、これからの計画づくりに向けての考え方等について議論し有意義な懇話会であったと感じております。なれない座長という重責のあまり、各種団体からの意見や提言に向けてうまくリーダーシップを発揮できなかった感はあるものの最後に座長として、これからの生涯学習に期待する役割について次の一言を論じさせていただきます。

今、少子高齢化の急速な進展や雇用形態の多様化、人間関係の希薄化等、生涯学習を取り巻く社会環境は、大きく変化しています。

このような社会にありましては、生涯学習は、個人の楽しみや、自己の向上のために行われるだけでなく、市民一人ひとりが学びを通して、人と人、人と地域社会など様々な「つながり」を育み、多様な文化を尊重し、互いに支えあいながら、共生するまちをつくることを目的として新たな生涯学習基本計画を策定していくことが求められているのではないかと考えております。

どうか、新たな生涯学習推進基本計画が実りある実践行動に結びつくことを期待し懇話会からの報告とさせていただきます。